

大阪城の石垣を学ぶ(その1)に参加して

林 永造



越木岩神社にて池田家の刻印石を見る(撮影:近藤信子さん)

大阪城の石垣を学ぶに参加した。前日は曇天にて当日の天気を心配したが、曇天の内に参加者80名、バス2台にて歴史博物館横を8時30分に出発。最初の訪問地である多田銀銅山(兵庫県猪名川町)へ向かう。ここは豊臣・徳川時代にわたって大阪城の財政を支えたといわれる鉱山である。深まる秋を眺めつつ多田銀銅山、悠久の館に到着。参加者は健脚組とゆっくり組に分かれ、前者は山奥の瓢箪間歩と台所間歩まで歩くコースへ、後者はその途中の代官所跡と青木間歩、金山彦神社までのコースに参加した。私は後者の方に参加。歩くこと約20分で青木間歩に到着。なかの坑道に入る。暗き電気の光の下、案内ガイドの梅谷さんの誘導で坑道の天井に銅鉱脈が一部露出しているのを見て感激。当時の金堀大工の苦労話や、6~7千万年前の火山活動の火流の動きで銅鉱脈ができるなどの話も聞いた。続いて金山彦神社と神宮寺に向かう。明治初期の廃仏毀釈の嵐をかいぐった神仏混交の名残りである神と薬師如来の話しを聞き、悠久の館に戻って昼食をいただく。幹事さんご尽力の「きたはま」の弁当で、体裁良く又味付けも良い弁当で、空腹も充足した。

食事後、ゆっくり組が一足先に出発。まず、西宮の北山緑化植物園内にある刻印のある石をひとつ確認した。これは出雲の大名、堀江家が切り出したものだった。ついで、堀江オルゴール館へ回る。可愛い案内嬢の中田さんより館の歴史と300余台のオルゴールについて説明を受けたが、その1台はピエロの人形が手紙を書き疲れて居眠りすると灯火が消え、人形が目を覚ますと灯火が大きくなる動きに感心。最後に1912年、ドイツで考案されたピアノとヴァイオリンの自動演奏でモーツァルトのアイネ・クライネ・ナハトムジークに聞きほれ、案内嬢を見送られて館を出発した。再び越木岩神社で備中高梁の池田家の刻印の残る巨石(ご神体)と、石を割ったあとの端石が散らばる様子を見、ここで大阪城に持ち込む石が実際に加工された様子が実感できた。そして最後に夕暮れの中、芦屋の浜で見つけた、船積み前の石を車中から見物して歴博に17時40分、到着。お世話になった幹事さんと先生にお礼を申しあげ、散会した。



堀江オルゴール館にて(撮影:近藤信子さん)

津波・高潮ステーション“TSUNAMI”と阿倍野防災センターを訪ねて

武井 基悦

3月5日（金）10時に地下鉄阿波座駅に集合（43名）、大阪府立の津波・高潮ステーションの展示見学へと向かいました。まず研修室にて津波・高潮に関するガイダンス映像を見たのち、展示室を見学しました。展示は「海より低いまち大阪」「災害をのりこえ着実な高潮対策」「高潮防災施設のはたらき」「わたしたちのまちの水防団」「高潮とは異なる津波の脅威」のコーナーからできており、過去の高潮被害の様子を伝える写真や、大型台風の際にどこまで高潮が上がってきたのかわかる住宅の原寸復元をみることができました。続いて「ダイナキューブ-津波災害体感シアター」に入りましたが、この部屋では巨大な4面スクリーンで津波の迫力と恐ろしさが体感できました。この館では津波・高潮の展示と体験コーナーにより災害の脅威と防災施設の現状を知ることができ、おおいに勉強になった次第です。

その後、地下鉄で移動し、大正橋の北東詰にある安政大地震と津波（1854年）の被害を記録した石碑を見学しました。先人の遺してくれた教訓を学ぶことができました。

各自昼食ののち阿倍野で再集合し、14時30分に大阪市立阿倍野防災センターを訪ねました。まず学習ルームにて防災に関するガイダンス映像を見たのち、2班に分かれ、防災体験に向かった。体験はバーチャル地震体感、火災発生防止作業、煙中歩行、初期消火作業、119番通報、応急救護、震度7振動体験の



阿倍野防災センターでの119番通報体験



大正橋たもとの安政地震・津波記念碑

順番でおこなわれ、リアルにつくられた地震発生直後の街並みを再現した迫力のあるセットのなかで約80分を過ごしました。最後に各自終了証を渡され、解散しました。

近い将来、大阪も襲われるといわれる大地震・津波の災害から命を守るため日頃からの心がけが大切であること、また災害にあった時の適切な備え、行動が必要であると感じています。両施設から学ぶ点は多く、ぜひご覧なさることをお奨めします。

平成22年度の活動に向けて

会員の皆様にはいつも友の会行事にご参加いただき、まことにありがとうございます。おかげをもちまして近年は行事参加者数も大きく増え、幹事一同嬉しい悲鳴をあげています。

さて、4月以降の行事ということですので事務局だよりによりご案内しているところですが、平成22年度は従来の活動に加え、いくつかの新シリーズを始める予定です。

この間継続して実施してきた企画は、西国街道を歩く、大阪城の石垣を学ぶ、オノコロ島を探す旅、山の辺の道周辺の古墳と資料館を訪ねる、資料館を歩く、の5本で、これにバス旅行などの単発の見学会を実施しています。このなかにはまもなく終了を迎えるものもありますので、それに代わる(組み換える)新シリーズをたちあげます。

現在検討中(一部4月に試験実施)のものは、史跡をめぐる、モノづくり・伝統工芸を訪ねる、町人文化探訪、街道と町並みを歩く、などです。たとえば、4月25日開催の「野田藤と福島区の史跡を訪ねる見学会」は史跡をめぐるシリーズです。また、かつて開催した食事会もたいへんご好評いただきましたので、町人文化探訪シリーズとして実現できないか検討しています。もちろんバス旅行なども適宜開催したいと考えています。

正式には総会でご承認をいただきたいと思いますが、できるだけ早く皆様に幹事会の思いをお伝えし、ご意見を頂戴しながらより良い活動を実現していきたいと考えた次第です。

どうか、友の会活動の一層の充実のために会員皆様のご支援とご協力および会運営への積極的なご参加をよろしくお願い申し上げます。

平成22年3月31日

大阪歴史博物館友の会 会長 戸田 健治

連載

「浪花百景」～四天王寺合邦辻～

第12回

千倉 康由

四天王寺西門前から西に下る逢坂と、逢坂下から南へ天下茶屋方向に向かう街道の交差点が合邦辻である。合邦辻間魔堂は聖徳太子の開基と伝えられる。合邦は、もと合法と書き、聖徳太子が物部守屋と仏法について合論せられた所であるという。この合法辻間魔堂と謡曲の俊徳丸（河内国高安の長者の息子だった盲目の俊徳丸がいわゆる俊徳道を通して四天王寺西門に來り西の海に沈む夕日を拝んで西方浄土を偲んだという）とを一つにして、芝居にしたのが有名な「摂州合邦辻」の浄瑠璃である。現在も、俊徳丸の故事に因縁を求めて、ここに病氣平癒を祈願する人が多く参詣している。間魔堂は明治10年（1877）の明治天皇住吉行幸の際、道路拡張のため現在の西方寺境内（天王寺区逢坂1、2丁目）に移された。



合邦辻間魔堂



特別展

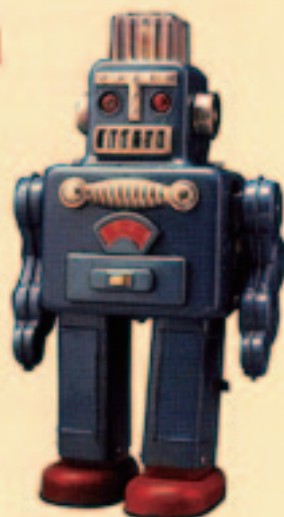
もうすぐやってくる!!

昭和のおもちゃとマンガの世界 ～北原照久 大コレクション展～

テレビ番組「開運!なんでも鑑定団」でおなじみの北原照久氏が40年かけて収集した膨大なコレクションの中から、ブリキのおもちゃ、めんこ、少年雑誌の付録マンガ、広告ポスターなど、昭和の庶民生活を思い起こさせる資料約1000点を展示します。子どものころをなつかしく思い出す方や、古いおもちゃにかえて新鮮さを見出す方など、世代ごとにさまざまな受け止め方のできる展覧会です。またとない機会ですので、ぜひともご覧ください。

- 会 期 / 平成22年4月18日(日)～6月21日(月)
火曜日休館。ただし5月4日は開館し、5月6日(木)が休館。
- 開館時間 / 午前9時30分～午後5時(金曜日は午後8時)
- 観 覧 料 / 大人600円 高大生400円

※中学生以下・大阪市内在住の満65歳以上の方、障害者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料(要証明)
※友の会会員は会員証提示で会期中1回観覧できます。会員証をお忘れなく。



スモークンロボット
1950年代

編集 後記

今年は桜の開花が早く、この「歴友」がお手元に届いた時はもしかして造幣局の通り抜けも花が咲いているかもしれません。新年度になると生活が一変される方もいらっしゃると思います。そうでない方も含め、新しい気持ちで4月をスタートさせたいものです。友の会も新しい事業シリーズがはじまります。みなさんの積極的なご参加をお待ちしております。(大澤)